

【勤労観・職業観】

現在、フリーターやニートと言われる定職に就けない、あるいは就かない人が増加し、社会的な問題となっています。そのため、近年、「キャリア教育」の充実が小・中・高等学校期を通して大きな課題として扱われています。

教育を受ける大きな目的は、社会的に自立するための選択肢を増やすことです。進学は目的を達成するための方法・手段です。学歴は積んだけれども職に就かない、適職がないから仕事をしないでは、何のために学んだのか、目的と方法・手段の履き違えになってしまいます。

生きるためには働く、仕事を持つという意識や態度を育てることを生徒自身の**生き方、在り方に関わる指導**の視点として据えなければならない時代になりました。

学校では

- 進路指導としての職業研究の時間を計画的に設ける
- 体験的な学習等により社会性を高めさせる
- 読書を奨励し、多くの人の生き方や在り方を間接的に体験させる
- 個別面談やグループ学習、進路研究などの活動を通じて自己の適性や能力、可能性についての理解を深めさせる
- 他者の価値観や職業観に触れさせるため意見発表やグループ活動を計画する

家庭では

- 将来について、話し合う機会を作る
- 保護者の仕事の内容や苦勞、やりがいなど職業生活について話して聞かせる
- 親戚や保護者の知人、地域の人など様々な大人の生き方や職業に接する機会を設ける
- 家事を分担し適切な分量の労働を習慣化させる
- 家庭の経済状況について知らせるなど、労働と対価について理解させる

【健康・体力】

人間が生きていく上で大切なこととして、昔から「知・徳・体」ということが言われてきました。これを現行の学習指導要領では、「確かな学力」、「豊かな人間性」「健康や体力」を基礎とした「生きる力」と捉えています。

近年、児童生徒の体力の低下も指摘されていることから、自らの健康を生涯にわたって維持管理するための態度や習慣を身に付けさせることが必要です。

健康な心身があるからこそ、意欲や気力をともなってたくましく生きるための活力が生まれます。

学校では

- 体力の向上が図れるよう体育の授業を意図的、計画的に推進する
- 保健の授業を通して、心身の健康についての知識や技能を身に付けさせる
- 体育的な学校行事等を通じて体力、気力の向上を図る
- 部活動を奨励し、体と心の成長を援助する
- 保健委員会の活動や「保健だより」などにより、病気の予防や規則正しい生活習慣について啓発活動を行う

家庭では

- 食事や睡眠、入浴などに留意し規則正しい生活を送らせる
- 朝食を必ず摂らせ、昼食の弁当についても栄養のバランスを考慮する
- 夕食はなるべく家族で共にする
- 家族で運動に親しむ機会を作る
- 保護者自身が姿勢を示すことにより、健康を自己管理しようとする態度を育てる
- 家庭が安心できる居場所となるような雰囲気づくりに努める